

第 35 回 篠原記念賞および同奨励賞

(目的) 故篠原隆政氏の業績を記念し、給排水衛生設備に関する技術の研究、開発または普及に、特に優れた業績を挙げた会員に対し、篠原記念賞を贈って表彰するものである。

また、給排水衛生分野を専攻し、将来の活動が期待できる博士修了学生あるいは修士修了学生、または社会人として現在同分野で活動し、今後もさらなる活躍が期待できる会員に対し、篠原記念賞奨励賞を贈って表彰するものである。

1. 篠原記念賞(1件)

受賞者	木村 洋 (木村洋災害用トイレコンサルタント)
推薦理由	<p>木村洋君は、業績に記載のとおり小委員会主査として「集合住宅の災害時の水環境・トイレ問題」に関して継続的かつ実践的な研究をし、さらに「災害時のトイレ使用マニュアル」の普及推進による社会貢献を行ってきた研究者であり、その成果は学術・実践の双方において高く評価される。</p> <p>普及推進に関する取り組みとして、前述の業績以外の内容は下記のとおり。</p> <p>① 公益財団法人マンション管理センター「月刊マンション管理センター通信 5月号」(2021年3月15日発行、「同6月号」(2021年6月15日発行)、独立行政法人住宅金融支援機構「マンション情報BOX2021 秋冬号」(2021年11月発行)にて「集合住宅の災害時のトイレ使用マニュアル作成手引き」の概要を掲載。書籍として、(一社)日本トイレ協会編「災害とトイレ」(2022年7月10日発行)にて「マンションのトイレ防災」の項を執筆。</p> <p>② 東京都「東京トイレ防災マスタープラン」(2025年3月公表)における「マンション防災の推進」の項で、「集合住宅の災害時のトイレ使用マニュアル作成手引き」が参考文献として紹介される。また、東京都住宅政策本部民間住宅部マンション課「東京都マンション防災ガイドブック」(2025年10月公表)第4章6給排水管の項では、「集合住宅の災害時のトイレ使用マニュアル作成手引き」が4頁(pp. 58~61)に渡って引用される。</p> <p>③ 2025年3月放送のNHK「あしたが変わるトリセツショー 命の防災」に出演し、災害時のマンションにおけるトイレ使用困難という社会的課題について、実験映像を交えて一般視聴者に分かりやすく解説。</p> <p>これらの取り組み、多くの住民や管理組合に災害トイレ対策の重要性を広く認知させるために極めて意義深い。</p> <p>また、学術研究の面でも、氏は災害時トイレ分野に関する技術論文「マンホールトイレ用汚水糞汚物捕捉装置の開発」(空気調和・衛生工学会論文集, 2024)において、災害用トイレの衛生性と維持管理性に焦点をあて、自治体の災害トイレ整備方針にも寄与する重要な成果を示している。また、空気調和・衛生工学会および日本建築学会において、災害時のトイレ対策、備蓄計画、使用マニュアル策定などに関する口頭発表を精力的に行い、災害トイレ問題の体系化に貢献している。さらに防災・レジリエンスの観点から、雨水利用、井水活用、給水立て管の耐震性に関する研究も継続して実施しており、集合住宅の災害対応力向上に寄与する多面的な知見を蓄積している。雨水の初期降雨除去方式や防災用井戸としての水質評価、震動台実験による給水立管の耐震性能検証など、建築設備の実大・実験的研究を通じ、平常時から非常時までを一貫して捉える視点を提示している点は特筆に値する。</p>

	<p>現在、木村洋君はマンション防災アドバイザーとして管理組合や居住者へ「集合住宅の災害時のトイレ使用マニュアル作成」を指導し、実際の防災訓練において携帯トイレ使用体験や断水時のバケツ洗浄の実施講習を行うなど、研究成果の社会実装を積極的に進めている。研究と実践を往復しながら、災害時に住民が直面する課題を具体的に解決する姿勢は、防災分野において他に類を見ない特徴である。さらに、その知見を本学会便覧に具備すべく、給排水衛生設備委員会傘下「給排水衛生設備に関する成果とりまとめ 小委員会」の委員として尽力しており、今後、引き続きの活躍が期待される。</p> <p>このように、木村洋君を中心とした研究活動により得られる成果は、今後の給排水設備設計に対して多大に貢献するものであり、給排水衛生設備分野に係る研究者や実務者の見本となり、若手技術者の育成にも十分な貢献が期待される。</p> <p>以上より、給排水衛生分野の技術発展に関して寄与するものであり、今後、益々の活躍が期待される。</p> <p>よって、その功績は、篠原記念賞に値するものと認められる。</p>
--	---

2. 篠原記念賞奨励賞（5名）

受賞者 主な業績	市川 智大（神奈川大学大学院） 修士論文 「排水設備における CFD 解析 –CFD 解析結果と実験結果との比較–」
受賞者 主な業績	富岡 俊介（明治大学大学院） 修士論文 「真空便器を用いた真空排水システムに関する研究」
受賞者 主な業績	田中 健太（関東学院大学大学院） 修士論文 「研究施設における Zero Water Building への改修技術とその検証」
受賞者 主な業績	相澤 幸司（関東学院大学大学院） 修士論文 「排水立て管システムを介した室内へのエアロゾルの侵入の可能性」
受賞者 主な業績	森 駿太（明治大学大学院） 修士論文 「学生寮大浴場を対象とした水とエネルギー消費性能に関する研究」